



1. カイコの病気(Q&A)

Q1-1. カイコの病気(蚕病)には、どのような種類がありますか？

病原体によるものとしては、「ウイルス病」・「糸状菌病」・「細菌病」・「原虫病」の5種類、非病原性によるものとしては、「農薬中毒」、「ニコチン中毒」、寄生バエによる「きょうそ病」などがあります。

Q1-2. 現在、どのような蚕病が発生していますか？

養蚕現場で発生しやすい蚕病は、ウイルス性の「カイコ核多角体病(通称、膿病 のうびょう)」と、糸状菌病の「硬化病」です。特に膿病は、カイコの飼育中以外にも営繭後に発症して「内部汚染繭」を生じることから、繭の収量と品質に大きな影響を及ぼしています。

Q1-3. 今後、注意が必要な蚕病はありますか？

カイコの飼育条件が変わると、発生する蚕病の種類も大きく変わります。稚蚕人工飼料育が普及している現在は、稚蚕期(1~2齢)を人工飼料で飼うため、かつて猛威を振るった「コウジカビ病」や、ウイルス病の一種である「伝染性軟化病」は姿を消しました。しかし、今後、全齢桑育に戻る場合には、かつて猛威を振るったこれらの蚕病が再燃する恐れがあるため、注意が必要です。また、全齢人工飼料育を継続的に行う場合には、通常の桑育では発生しない消化器系の「細菌病」(細菌性消化器病)が発生するため、桑育以上に高度な衛生管理が必要です。